

く。到着者は中村鶴藏を除き二十四名。

六月五日（日曜日）

第一回の参事會議を開催す。

三浦技監、江守、田寺、由良、本莊、山崎各参事、高橋

科員出席。

會議は人員の補充問題、各工程局の組織權限、各局豫算の決定、出張旅費額及日額旅費、機械器具の購入、自動車の配置、前渡金關係、官舎、合宿等に關し種々協議を爲す。

同夕頤園に於て全員初顔合會を行ふ。一行大元氣にて東洋平和建設の爲めの礎石たらんことを契ふ。

六月六日（月曜日）

太田橋と城光寺橋との新粧成る

富山縣土木課

此の日全員軍特務部に集合し記念撮影を爲す。同日江守、本莊良の各参事及高橋科員は、建設總署に股署長と會し前渡金問題、乗用自動車及電話機、其の他機械器具等に關し種々打合を爲せり。

六月七日（火曜日）

午前七時三十分、天津及濟南に勤務することゝなりたる一行は、本莊参事の案内の下に正陽門を出發し勇躍任地に赴く。北京に残る者一同は日の丸を打振り壯途を祝す尙石家莊行三名（白石、福田、木歩士）は午前八時北京前門驛を悲壯なる決意を眉宇に現はし出發す（老田技士案内）。

縣下太田橋と城光寺橋との改良工事はいづれも昭和十年の着工にして施工半ばにして事變に遭遇したるも銳意努力して此程竣功を告げたる次第である。其の工事概要は次の通である。

富山縣城光寺橋改良工事概要

路線名 指定府縣道高岡伏木線

架橋位置

高岡市城光寺
射水郡伏木町立會

河川名 小矢部川

橋 長 一三八・六米

有効幅員 八・〇米

荷 重 第三種

構造大要 橋種 鐵筋混凝土ガルバー橋。最大支間 二

三・八〇米 主桁 桁數 五本通り、間隔一・七〇米。

橋脚 ラーメン形鐵筋混凝土。同上基礎 圓形井筒内徑

二・六米深九・八米井筒二基建。橋臺 重力式混凝土橋臺

橋面鋪裝 碎石混凝土。高欄 瓦斯管。取付道路延長

一六二・〇〇米、有効幅員 一〇・〇〇米。

使用材料 早強セメント 一。普通セメント 二二、九

六六・〇袋。橋體鐵筋 總數量 一六四・〇噸、同上平米

當り 〇・〇八六噸/平米。橋梁鐵材 總數量 二八七・

〇噸、同上平米當り 〇・一五噸/平米。橋體用混凝土

總數量 一、四七二・〇立米、同上平米當り 〇・七七立

米/平米

工費 上部工費 工費 八九、三七七、〇〇圓(六一・三%)。

同上二平米當り 四六・八〇/平米 下部工費 工費 五

六、三三七、〇〇圓(三八・七%)、同上二平米當り 二九・

五〇/平米。取付道路工費 工費 四、二五四・〇〇圓、

同上二平米當り 二六・二〇/米。總工事費 工事費 一

七二、八五〇・〇〇圓、同上二平米當り 九〇・五〇/平

米。事業名 第一期橋梁改良事業。工事執行方法 富山

縣直營工事着手及竣効。工事着手 昭和十年五月二十四

日。工事竣効 昭和十三年四月三十日。

富山縣太田橋改良工事概要

路線名 指定府縣道音川出町線

架橋位置 東礪波郡太田村立會
般若村

河川名 庄川

橋長 四四三・〇米

有効幅員 五・五米

荷重 第三種

構造大要 橋種鐵筋混凝土三徑間連續桁橋。最大支間 二

五・〇米 主桁 桁數 三本通り、間隔 二・〇米。鐵脚

鐵筋混凝土。同上基礎 小判形井筒内徑二・七米深九

〇一一・米井筒一基建。橋臺 重力式混凝土橋臺。橋

面鋪裝 膠石。高欄 鐵筋混凝土。取付道路 延長 四

六二・〇米、有効幅員 五・五米。

使用材料 早強セメント 一一、三六八・〇袋。普通セメン

ト 二三、六四六・〇袋。橋體鐵筋 總數量 二二六五・〇

觔。同上平米當り 〇・一〇九觔/平米。橋梁鐵材 總

數量 三九二・〇觔、同上平米當り 〇・一六一觔/平米
橋體用混凝土 總數量 二、二九三・〇立米、同上平米當
り 〇・九四立米/平米。

工費 上部工費 工費 一一三、九七四・〇〇圓(五四・七
%)。同上平米當り 四六・七〇/平米。下部工費 工

費 九四、一七六・〇〇圓(四五・三%)、同上平米當り
三八・六〇/平米。取付道路工費 工費 一五、九五〇

〇〇圓、同上平米當り 三四・五〇圓/米。總工事費 工
事費 二四六、二〇〇・〇〇圓、同上平米當り 一〇一

〇四圓/平米。事業名 昭和九年國災縣災工事。工事執行方
法 富山縣直營。

工事着手及竣功 工事着手 昭和十年五月三十一日 工事
竣功 昭和十三年六月三十日。

× ————— ×